

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ・「いきよう」・・・安全・安心な教育環境を基盤に、児童生徒一人ひとりの命と人権を守る学校
- ・「のびよう」・・・児童生徒の知識の深化・技能の向上及び協働する心を育て、自立を支援する学校
- ・「てをつなごう」・・・南河内の歴史と文化に触れ、地域の人々とともに共生する学校

2 中期的目標

1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進

- 一人ひとりの人権を尊重し、多様性を認め合い、安全・安心な学校づくりに向けた組織運営や環境の充実を図る。
- 学校外の専門人材や関係諸機関との連携を深め、児童生徒一人ひとりの課題に対応できる取組みを図る。
- 防災・防犯意識を高め、迅速な危機管理対応ができるような取組みを図る。
- 学校ホームページにおける情報発信のさらなる充実を図る。

*学校教育自己診断（保護者）のHPに関する項目の肯定的意見を令和9年度までに95%を維持する。(R4 84% R5 82% R6 95%)

2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育むキャリア教育の実践

- 児童生徒の個に応じた支援・指導を行うために、研修やOJTを通じた教員のアセスメント力を高める取組みを図る。
- 「キャリア教育の視点から考える授業づくり」に向けた授業のあり方を追求し、積極的な授業改善やICT機器の活用を通じた教育の充実を図る。
- 卒業後を見据えた「生きる力」を育むために、小・中・高が連携し、一貫したキャリア教育の推進を図る。

*学校教育自己診断（保護者）の「将来の希望や職業などについて適切な指導」項目の肯定的意見を令和9年度までに95%とする。(R4 87% R5 90% R6 92%)

3 南河内地域における支援教育のセンター的役割の充実と地域連携の強化

- 南河内地域における特別支援教育の力量向上のため、関係機関と連携し、特別支援教育のセンター校としての役割をさらに充実する。
- 地元住民や地元企業との連携を深め、防災をはじめとした協働での取組みを充実する。
- ポッチャクラブの活動を通して、障がい者スポーツへの理解・関心を高める。

4 「働き方改革」の推進

- 学校教育活動全般を通して、業務の精選や業務の効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|----------------------------|--------------|
| | |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R6年度値] | 自己評価 |
|-------------------------------|---|--|--|------|
| 1 開かれた学校づくりと安全・安心な学校づくりの推進 | (1) 安全・安心な学校づくりのための組織運営の推進 (2) 外部人材や校内の人材活用を通して、安全に対する教員の意識を高め、専門性を向上させる (3) 外部人材を活用した家庭教育への支援の充実 (4) 防災体制の組織的確立 | (1) ①学校安全や人権に関する教職員研修を実施し、授業を行う ②医療的ケアに関する知識や技能を深め、安全で円滑な医療的ケアを実施する ③食物アレルギーの定例研修を行う (2) 外部専門家や校内人材による巡回相談や研修を実施する (3) 外部専門家による保護者参加の研修会や巡回相談を実施する (4) ①防災体制に対する教職員一人ひとりの意識の向上のため、BCPに基づいた訓練および外部専門家による研修（公開研修を含む）を実施する | (1) ①教職員研修は年3回維持、授業については全学年学期に1回以上を維持。[研修年3回 授業年2回] ②学校教育自己診断における「学校は、児童生徒の健康・安全について適切に対処している」の項目についての肯定的意見 95%以上を維持[94%] ③研修年2回実施[1回] (2) 学校教育自己診断における「学校は、肢体不自由児教育の専門性を備えている」の項目についての教職員アンケートの肯定的意見 85%以上[新規] (3) PTAと連携し、保護者を対象に、外部人材を活用した相談会や研修会等を5回以上維持[5回] (4) ①年3回以上[3回]を維持 学校教育自己診断における「学校は、防災に対する意識を高める取組みを行っている」の項目についての肯定 | |

府立藤井寺支援学校

| | | | | |
|---------------------------------------|---|---|--|--|
| | (5) 学校ホームページの充実 | ②大阪母子医療センターとの連携で、防災キャンプを実施する (5) ・学校ブログの積極的更新をはじめ、PTA とも連携しながら内容の充実を図る | 的意見 95%以上[94%] ②年 1 回 2 学期に実施[新規] (5) 学校教育自己診断における「HP を見たことがある」の項目についての肯定的意見 95%以上を維持[95%] | |
| 2 特別支援教育の専門性向上と児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践 | (1) 肢体不自由児教育の専門性を高め、授業力向上のための校内体制の充実 (2) 「生きる力を育むキャリア教育」の観点から授業改善を進める (3) 小中高の連携によるキャリア教育の推進 | (1) ①指導教諭を中心として、新転任者研修の他に、肢体不自由児教育の専門性を高める研修や指導を行う ②自立活動通信の発行 (2) ①校内授業研究 (JSS) におけるオーダーを、キャリア教育全体計画の項目に分類しながら進め、授業改善につなげる。 ②キャリア教育全体計画に基づいた個別の指導計画の作成 (3) ①キャリア教育に関する研修を行う ②各学部、学校間交流を促進する | (1) ①研修・自立活動相談に対する指導を含めて 16 回以上、また研修後のアンケートの理解度 100%を維持 ②年 6 回以上[10 回] (2) ①小学部 15 回[16 回]、中学部 3 回[3 回]高等部 5 回[8 回]を維持する。 学校教育自己診断 (保護者) における「学校は、小学部から発達段階に応じた生きる力をつける教育 (キャリア教育) の推進ができています」の項目について 95%以上[新規] ②学校教育自己診断 (教職員) における「あなたは、キャリア教育全体計画を踏まえた授業づくりや教育活動に取り組んでいる」の項目について 90%以上[新規] (3) ①年 1 回 ②学校教育自己診断において「学校は、地域の学校との『交流及び共同学習』を積極的に行っている」の項目について肯定的意見 95%以上を維持[96%] | |
| 3 南河内地域の充実と地域連携の強化における支援教育のセンター的役割 | (1) 地域支援のセンター的機能をさらに高め、地域支援を積極的に行う (2) 地元住民や地元企業との連携を深め、協働した取組みを行う (3) 障がい者スポーツの普及・啓発 | (1) ①リーディングスタッフを中心としたチームによる巡回相談等の地域支援活動を積極的に行う ②指導教諭との連携による地域支援の充実 (2) ①防災研修 (公開) に川北地区住民や地元企業に参加していただく ②地域資源や学校ボランティアと連携した活動を推進 ③防災をはじめ、地域との連携を深めるために定期的な意見交換を行う (3) ポッチャ競技を通じた児童生徒の育成と地域への普及 | (1) ①巡回教育相談、教職員対象研修など 25 件以上[31 件] ②地域校への巡回相談 3 件以上[3 件] (2) ①防災研修 (公開) への参加件数 2 件以上[2 件] ②13 件以上を維持[13 件] ③2 カ月に 1 回開催 (3) ①ポッチャ甲子園等外部競技大会に参加 ②出前授業、交流行事等を促進 3 件以上維持[5 件] | |
| 4 「働き方改革」の推進 | (1) 業務の精選、効率化を図り、時間外勤務時間の縮減を図る | (1) ①一斉定時退庁日を週 1 回設定する。 ②分掌業務の精選、学校行事の見直し (行事の開催方法や日程の変更等)、一斉 1 便下校 (学期に 1 回) の実施により、教職員研修を充実させながら、時間外勤務時間の縮減を図る。 | (1) ①時間外勤務時間月 45 時間以上を 0 人 ②学校教育自己診断における「働き方改革」に関する項目「学校は、働き方改革に関する取り組みを積極的に行っている」での教職員の肯定的意見 86%以上 | |